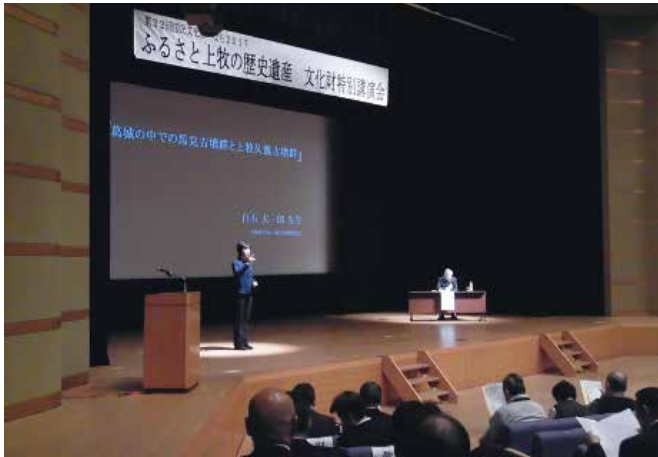


61 ふるさと上牧の歴史遺産 ～上牧銅鐸と上牧久渡古墳群～

開催日：2017年10月27日(金)～11月3日(金・祝)※特別講演会10月31日(火)

開催場所：上牧町文化センター



● 実施状況

本事業は、現在までの調査成果に基づいて、上牧町を代表する歴史遺産として上牧銅鐸と上牧久渡古墳群を中心に町内在所の遺跡と遺物を紹介し、上牧久渡古墳群の歴史的な位置付けや周辺地域が歴史上どのような発展を遂げたのかについて、多くの方々に興味をもっていただく事を目的に企画展示及び講演会を実施しました。

展示ギャラリーでは、今から200年余りに南上牧の観音山から出土した上牧銅鐸と上牧久渡3号墳から出土した画文帯環状乳神獣鏡を展示し、特設展示室では、上牧町内と周辺の関連した遺跡の出土遺物を展示しました。およそ200年前の遺物の里帰り展示とあって、考古学ファンも喜ぶ、大変興味深いものとなりました。

ベガサスホールでは、大阪府立近つ飛鳥博物館館長の白石太一郎先生と堺女子短期大学名誉学長の塚口義信先生をお招きし、文化財特別講演会を行いました。上牧町内の出土品や周辺地域を含めた葛城北部地域の歴史像についてお話いただき、上牧町が持つ歴史の深さや豊かさを知ることができる講演会

となりました。

今回の企画や講演会で、1,300名以上の方々に歴史や文化財に触れていただくことができました。中には、文化遺産に対する認識が新たになったとの声もいただきました。この事業をきっかけにより多くの方々に歴史文化に興味を持っていただくことができ、未来への発展につながる良い機会となりました。

【プログラム】

企画展示	10月27日～11月3日 9:00～17:00
	1階展示ギャラリー・特設展示室
特別講演会	10月31日 13:30～16:30
	ベガサスホール

【主催】

文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、上牧町、上牧町教育委員会、第32回国民文化祭上牧町実行委員会

63 企画展 「弥生時代の住まいと田んぼ」

開催日：2017年11月3日(金・祝)～11月12日(日)

開催場所：御所市アザレアホール



● 実施状況

近年、御所市では弥生時代の大規模水田跡が発掘調査され、大きな注目を集めています。本事業では弥生時代の稲作の様子と人々の暮らしに関する資料を展示し、日本の原風景としての弥生時代像に迫りました。

企画展では御所市内の鴨都波遺跡と田原本町の唐古・鍵遺跡から出土した弥生土器や木製農耕具、石器など約100点の資料を展示したほか、市内で発掘調査された弥生時代の水田跡について、写真パネル等で紹介しました。会場へは県内外から多くの来場者の方々がお越しになり、弥生時代の人々の水田経営の技術の高さや、自然を巧みに利用しながら暮らしていた生活の知恵に驚くと共に、弥生時代から続く人の営みに思いを馳せていました。

関連シンポジウムでは、「弥生の稲作はいかにして始まったか」というテーマのもと、大阪府立狭山池博物館館長の工楽善通氏と関西大学大学院非常勤講師の森岡秀人氏を講師に迎え、大陸からの稲作伝播と日本での広がりや、集落と水田との関係についてご講演いただきました。

本事業は、来場者の方々が過去から未来へと続く歴史文化に触れることで、地域に誇りをもつ一つのきっかけとなりました。

【プログラム】

◇企画展「弥生時代の住まいと田んぼ」

11月3日(金・祝)～11月12日(日)

◇シンポジウム

「弥生の稲作はいかにして始まったか」

11月5日(日)

講師：工楽善通（大阪府立狭山池博物館）

森岡秀人（関西大学大学院）

藤田和尊（御所市文化財課）

【主催】

文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、御所市、御所市教育委員会、第32回国民文化祭・第17回障害者芸術文化祭御所市実行委員会

64 へぐり山城フォーラム

開催日：2017年11月3日(金・祝)、11月5日(日)

開催場所：平群町総合スポーツセンターほか



● 実施状況

平群町には、戦国武将・嶋左近の居城であったと伝わる椿井城をはじめ、今から400年ほど前にその役割を終えることになった城跡が複数残っています。

本事業では、平群町観光ボランティアガイドとともに中世城館遺跡をめぐる歴史ウォークや、“戦国の梟雄”として知られる松永久秀が拠った信貴山城など平群町内の城跡に関わる出土遺物や資料などの展示を行い、“近世築城文化の源流”や戦国平群谷の遺風を肌で感じていただきました。

また、城郭考古学者である千田嘉博氏をお招きして開催した歴史講演会「戦国平群谷の城郭」は、平群町内の文化財に対する魅力と新たな発見の連続で、訪れた多くの歴史・城郭ファンを魅了しました。講演会終了後には、町のイメージキャラクター「左近くん」の生みの親であるMAYU氏と戦国史研究家の坂本雅央氏を加えての座談会も行い、ロマンあふれる戦国談義が繰り広げられました。

他にも、大人も被ることができる大きな折り紙カブト制作体験や、嶋左近に関する資料の展示、通常は年2回のみ公開されている重要文化財の藤田家

住宅・白山神社弥勒堂の特別公開など、歴史ファンのみならず、子供から大人まで幅広い年代の方々に山城フォーラムを満喫していただきました。

【プログラム】

- 3日 10:00～15:00
重文藤田家・白山神社弥勒堂の特別公開
- 5日 9:30～12:00
椿井城ウォーク
特別展示&折り紙カブト制作
- 13:00～15:00
歴史講演会&座談会

【主催】

文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、平群町、平群町教育委員会、第32回国民文化祭平群町実行委員会

65 御杖村伊勢本街道ウォーク

開催日：2017年11月5日(日)

開催場所：みつえ体験交流館 → 伊勢本街道 → みつえ温泉 姫石の湯



● 実施状況

三重県との県境に位置する御杖村には、村の東西方向に伊勢本街道が通っており、江戸時代にはお伊勢参りの宿場もあったことから多くの旅人で賑わっていました。村内各地には当時の道標などが今もなお残っています。

今回実施した「御杖村伊勢本街道ウォーク」では、奈良県内をはじめとして近隣府県から32名が参加し、爽やかな秋晴れの中、伊勢本街道を地元ガイドの案内で約7kmのコースを歩きながら史跡等を巡りました。道中では地元秋祭りの太鼓台の観覧、終点となる「みつえ温泉 姫石の湯」では代々引き継がれてきた獅子舞の演舞もご覧いただき、参加者には伊勢本街道の歴史に加えて、御杖村の郷土芸能も存分に楽しんでいただくことができました。

また、参加者が千本杵でついたお餅、御杖村の郷土料理である「いっきなべ」をお楽しみいただくとともに、温泉入浴でウォークの疲れを癒していただきました。

今回のウォークで、「伊勢本街道 御杖村」の歴史と文化を多くの方に知っていただく良い機会になりました。

【プログラム】

- 10:30 近鉄榛原駅発
- 11:15 御杖村役場着
- 11:30 みつえ体験交流館着（昼食）
- 12:20 みつえ体験交流館発（伊勢本街道ウォーキング）
- 13:50 御杖神社着（地元秋祭り太鼓台を観覧）
- 14:10 御杖神社発（伊勢本街道ウォーキング）
- 16:10 みつえ温泉 姫石の湯着
獅子舞の見学
千本杵の餅つき・いっき鍋の振る舞い
温泉入浴
- 18:00 みつえ温泉 姫石の湯発
- 18:45 近鉄榛原駅着

【主催】

文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、御杖村、御杖村教育委員会、第32回国民文化祭御杖村実行委員会

66 天誅組講演会 in 下市町

開催日：2017年11月11日(土)

開催場所：下市観光文化センター



● 実施状況

下市町は、奈良県のほぼ真ん中に位置し、清流吉野川の畔の豊かな自然に囲まれた町です。割り箸や手形発祥の地でもあり、名前のとおり古くから市として商業が栄えました。今回は下市町が天誅組の舞台の一つであることから、『天誅組講演会 in 下市町』と題して歴史講演会を開催しました。

第1部では、談山神社の長岡千尋宮司より大化の改新の頃から現代に至るまでの天誅組に関する基調講演を行いました。

第2部では、高田吉子氏が万葉歌を素晴らしい歌声で披露するとともに、龍笛(雅楽の楽器の一つ)も披露いただき、会場中に美しい音色が鳴り響きました。会場から希望者を募り、龍笛を体験するワークショップでは、なかなか音が出せず苦労する体験者に会場から温かい拍手が送られました。

第3部では、下市町文化連盟会長大西一則氏をコーディネーターに多彩なゲストでパネルディスカッションを行いました。下市の地域からみた天誅組や、なぜ下市を含む吉野地域が歴史の舞台になったかなど、様々な観点で議論を深め、認識を新たにすることができました。

会場では、講演会の数ヶ月前に発見された天誅組に参画した下市町の神官である橋本若狭直筆の文書も初披露され、多くの方が来場しました。盛況のうちに終わり、地域の歴史文化を改めて見直す良い機会となりました。

【プログラム】

13:00~13:30 基調講演

「大化の改新から明治維新の魁 天誅組」
長岡千尋氏(談山神社宮司)

13:30~14:00 龍笛・短歌奏上

高田吉子氏(龍笛奏者・万葉歌 哥い手)

14:10~16:00 パネルディスカッション

コーディネーター：大西一則氏(下市町文化連盟会長)
パネラー：長岡千尋氏(談山神社宮司)／高田吉子氏(龍笛奏者・万葉歌 哥い手)／松田度氏(大淀町教育委員会学芸員)／草村克彦氏(天誅組記念館館長)／三矢あゆみ氏(天誅組緋楓隊)／岡本真生氏(関西学院大学院社会学研究科)

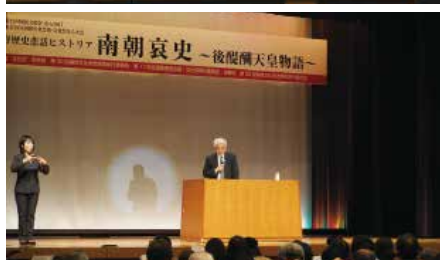
【主催】

文化庁、奈良県、奈良県教育委員会、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、下市町、下市町教育委員会、第32回国民文化祭下市町実行委員会

67 吉野歴史悲話ヒストリア南朝哀史～後醍醐天皇物語～

開催日：2017年11月19日(日)

開催場所：吉野町中央公民館



● 実施状況

後醍醐天皇が南朝を開かれた「吉野」の地で、『吉野歴史悲話ヒストリア南朝哀史～後醍醐天皇物語～』を開催しました。

最初に、吉野町の人形劇グループ「おはなしらんどカンブリア」による創作人形劇「ひとひらの太平記」を上演しました。「太平記」の中の一節で、後醍醐天皇の皇子・大塔宮護良親王を守り、泰平の世を願いながら散って行った村上義光・義隆親子の悲しい物語を人形劇で見事に表現しました。

福岡大学教授の森茂暁氏による歴史年表を中心に南朝の歴史についての基調講演の後、吉野町と友好交流都市である福岡県八女市の市民劇団「劇団大藤」が、後村上天皇の皇子・後征西将軍「良成親王」とその妃「姫御前」の悲恋の物語であるミュージカル劇「藤の記憶」を上演しました。上演後には、八女市より友好の証として良成親王のお手植えと伝わる大藤の苗を贈呈いただきました。

最後のパネルディスカッションでは、八女市熊野神社宮司の五條元滋氏、修験道の根本道場である総本山金峯山寺管領の五條良知師、万葉和歌などの朗

読劇を行うなど吉野に縁の深い女優・松坂慶子氏に森茂暁氏を加えた4名のパネリストが、奈良県出身の歴ドル・小日向えり氏のコーディネーターにより、吉野の歴史文化への思いをお話いただきました。

このシンポジウムを通して、南朝ゆかりの歴史文化を改めて見つめなおし、時代の移ろいととも風化してしまいがちな郷土への誇りや愛着心を改めて育てていくための良い契機となりました。

【プログラム】

13:35 人形劇「ひとひらの太平記」/おはなしらんどカンブリア
14:00 基調講演「日本歴史の中の南朝」/福岡大学教授 森茂暁氏
14:40 ミュージカル劇「藤の記憶」(ダイジェスト版)/
八女市民劇団 劇団大藤

15:40 パネルディスカッション
パネリスト:森茂暁氏(福岡大学教授)/五條良知師(総本山金峯山寺管領)/五條元滋氏(八女市・熊野神社宮司)/松坂慶子氏(女優)
コーディネーター:小日向 えり氏(歴ドル・タレント)

【主催】

文化庁、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、吉野町、第32回国民文化祭吉野町実行委員会